

2016年2月9日

学校評価を受けて

北星学園大学附属高等学校
学校長 三浦 英敏

昨年末から生徒、保護者の皆さんにご協力いただき、学校評価アンケートを行ってきました。お忙しい中ご協力いただき、感謝いたします。この間、教職員でこれらのアンケート結果について、様々な面から検討を進めてまいりました。それらをもとに次年度、私たちが特に重点的に取り組むべきことを明らかにしましたので、ご報告いたします。

なお、この学校評価につきましては、今後毎年行い、学校の課題改善に努める所存でありますので、今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

【キリスト教主義について】

- ①「キリスト教主義教育」が生徒に与える人格的影響については、生徒、保護者ともに8割近くが肯定的な評価をいただいていることがわかりました。さらに教職員の理念に対する理解についても肯定的な評価があります。しかし、いまだ十分とは言えず、学校が一体となってさらに理解を深めるべく取り組みを強める必要があることも今後の課題として重視していきます。

【様々な情報の共有について】

- ①学校(学年)の情報が共有されているかという点においては、保護者、教職員共に他の項目と比較して高いとは言えない実態があります。次年度は、学年通信や学校通信、ホームページ等を活用して情報が滞ることなく伝わるように意識、徹底していきます。

【学習面について】

- ①外部模試等については、教師側としては生徒の学力把握、生徒側としては学力向上をはかる目安となることが期待されるものです。現状においては、十分に有効活用がなされていないという評価がありました。次年度は、模試の活用について検討し、学力向上をはかる契機として利用できるよう取り組みをすすめます。
- ②学力の定着については、生徒の評価、保護者の評価において改善すべき課題とされています。その期待に応えるべく最優先事項として、生徒一人ひとりに向き合い、授業の一層の充実、家庭学習の推進等の取り組みを進めてまいります。